

〔一〕(評論) 採点基準 (合計≒50点)

問一 3点×2≒6点

(解答) ロ・ホ

問二 2点×3≒6点

(解答) a ≒ ハ b ≒ ニ c ≒ イ

問三 4点×2≒8点

(解答) X ≒ ハ Y ≒ イ

問四 4点

(解答) ニ

問五 8点

(模範解答例)

A ○3点

B ○2点

書き手としての主体性が固形化し、実体的に意識されることなく、自己が解体しきったところで
C ○3点

深い身体的感覚が全力を挙げてコトバをつむぎ出すこと。(8点)

■各加点要素の加点の条件

【A・B・Cに関して部分採点を行う(A・B・Cそれぞれ単独に採点を行って構わない)】

A 「書き手としての主体性が固形化し、実体的に意識されることなく」(3点)

※ 「頭で書く」ことの否定

※ 「書き手としての主体性が固形化し、実体的に意識されることなく」の「ことなく」などとひっくり返していいない、「書き手としての主体性が固形化し、実体的に意識され、」など「頭で書く」ことの説明を否定していいないもの(≒「頭で書く」ことの説明になっっているもの)は✖。

○ 「書き手としての我(エゴ・自己)が、コトバの外に存立し(コトバから遊離して)、その我(エゴ/自己)が(道具でも使うように)コトバを使うのではなく」などでも○。

✖ なお、「のではなく/ことなく」などとひっくり返していいないものは不可✖。

△「頭で書くのではなく」は△1点。
 △「コトバ以前に（書き手の心中に）成立している客観的リアリティなどは無く（を言語化するのではなく）」などは△2点。

B「自己が解体しきったところで」（2点）

※「カオスの中から」のような表現は加点なし※。

C「深い身体的感覚が全力を挙げてコトバをつむぎ出すこと」（3点）

△「書き手の意識の深層領域（／下意識）からコトバが湧き上がってくる」と。などは△2点。
 △「書き手がコトバに身を任せて、その赴くままに書いていくこと」。などは△2点。
 △「身体」からじかに滲み出してくる、本物のコトバを書くこと」。などは△2点。

問六 4点

（解答） コトバ以前

※これ以外不可※。

問七 9点

（模範解答例）

A○2点

B○2点

書き手の「我」を探したり、言語以前の客観的世界を求めたりすることなく、自己が解体しきったところで
 C○5点

書き手が身体の深部にみなぎり脈打つ意味形成的衝迫を言語化したものを理解すること。（8点）

■各加点要素の加点の条件

【A・B・Cに関して部分採点を行う（A・B・Cそれぞれ単独に採点を行って構わない）】

A「書き手の「我」を探したり、言語以前の客観的世界を求めたりすることなく」（2点）

※以下の2点に分けて採点。

- ①「書き手の「我（・エゴ）」を探したりすることなく」に1点。
- ②「言語以前の客観的世界を求めたりすることなく」に1点。

B「自己が解体しきったところで」（2点）

○「（書き手としての）自己／主体／「我」／エゴ」が解体しきったところで」の内容で○。

C「書き手が身体の深部にみなぎり脈打つ意味形成的衝迫を言語化しつつ書いたものを理解すること」（5点）

※「テキスト」を「読む」ことの説明。

「テキスト」⇨「書き手が身体の深部にみなぎり脈打つ意味形成的衝迫を言語化しつつ書いたもの」
「読む」⇨「理解すること」

▲【「テキスト」を「読む」こと】が問われているのに、「テキストを読む」と書かれている場合、Cの内容が書かれていても▲2点減点。

(例) 「書き手が「身体」の深部にみなぎり脈打つ意味形成的衝迫を言語化しつつ書いた「テキスト」を読むこと。」↓▲2点減点で△3点。

問八 5点

(解答) ホ

二 (評論) 採点基準 (合計 50 点)

問一 2点×4＝8点

(解答) 1 譲渡 2 厄介 3 至高 4 土壌

問二 4点

(解答)

近代社会 (4点)

※**抜出問題のため、解答どおり。**

問三 9点

(模範解答例)

A○3点

B○3点

近代人が個人に内在する理性によって、自らの生き方を構築できるようになったため、
C○3点

神の支配を必要としなくなったということ。(58字) (9点)

■形式上の不備

- ・文末表現：要素C参照／理由説明の結び「くから」になっている場合は、要素C不可。
- ・句点の扱い：1点減点

■字数：六十字以内 **二十九字以下のものは全体不可** (0点)

■各加点要素の加点の条件

A 「近代人が個人に内在する理性によって」(3点)

- × 「神」に代わるものとして、近代の個人に内在する「理性」について説明していないものは、要素A加
点なし×0点。

▲ 比喻が一般化されておらず、そのまま書かれている答えは▲2点減点で△1点。

B 「自らの生き方を構築できるようになったため」(3点)

- × 要素Aの「理性」によって、自らの生き方を構築できるようになったということを説明していないものは、要
素B加
点なし×0点。
- ▲ 比喻が一般化されておらず、そのまま書かれている答えは▲2点減点で△1点。

C 「神の支配を必要としなくなったということ」(3点)

※ 要素AとBのことから、神の支配が必要なくなったということについて説明していないものは、要素C加点なし
 ✖0点。

▲ 比喩が一般化されておらず、そのまま書かれている答えは▲2点減点で△1点。

▲ 「神」が明示されていない場合、▲2点減点で△1点。

問四 6点

(模範解答例)

A ○3点

B ○3点

個々人が背負う理不尽なつらさに どう対処するかという問題。(28字) (6点)

■形式上の不備

- ・文末表現…要素B参照／理由説明の結び「〜から」になっている場合は、要素B不可。
- ・句点の扱い…1点減点

■字数…三十字以内 十四字以下のものは全体不可(0点)

■各加点要素の加点の条件

A 「個々人が背負う理不尽なつらさに」(3点)

✖ 近代人が抱く理不尽なつらさについて説明していないものは要素A加点なし。

B 「どう対処するかという問題」(3点)

✖ 要素Aに対しての対応であることについて説明していないものは要素B加点なし

○ 「対処の仕方」は「打ち消し方」・「解決のしかた」でも可○。

問五 6点

(模範解答例)

A ○3点

B ○3点

国民全体で 広く共有する点。(13字) (6点)

■形式上の不備

- ・文末表現…要素B参照／内容説明の結び「〜こと」になっている場合は、要素B不可0点。
理由説明の結び「〜から」は可。
- ・句点の扱い…1点減点

■字数…十五字以内 七字以下のものは全体不可(0点)

■各加点要素の加点の条件

A 「国民全体で」(3点)

※国民全体であることを説明していないものは要素A加点なし。

B 「広く共有する点」(3点)

※要素Aが、「共有」されているということを説明していないものは要素B加点なし

○「共有」は「同化」でも可。

▲「大きな物語」が共有されていること具体例を具体的に挙げている場合、▲2点減点で△1点

問六 5点

(解答) イ (5点)

問七 12点

(模範解答例)

A ○3点

B ○3点

近代産業資本主義では、成員の不規則な行動が続くと社会の崩壊を招く恐れがあるため、

C ○3点

近代人は自らの意志にかかわらず合理的システムである「鉄の檻」に入って、

D ○3点

規格化された行動をしなければならないから。 (96字) (12点)

■形式上の不備

・文末表現…要素D参照／内容説明の結び「〜こと」になっている場合は、要素D不可。

・句点の扱い…1点減点

■字数：一〇〇字以内 **四九字以下のものは全体不可(0点)**

■各加点要素の加点の条件

※各要素同意表現可。

A 「近代産業資本主義では」(3点)

※近代産業資本主義における状況であることを説明していないものは要素A加点なし ✕0点。

○「近代産業資本主義」は「近代産業社会」でも可○。

B 「成員の不規則な行動が続くと社会の崩壊を招く恐れがあるため」(3点)

※要素Aは、成員と社会全体の関係が密接であり、成員の不規則な行動が社会の崩壊につながるということを説明していないものは要素B加点なし ✕0点。

C 「近代人は自らの意志にかかわらず合理的システムである「鉄の檻」に入って」(3点)

※要素AとBのことから、成員は好むと好まざるとにかかわらず、自ら「鉄の檻」(「鉄の檻」が比喩であるのでそのまま指摘)に入るということを説明していないものは要素C加点なし※0点。

△「鉄の檻」が「合理システム」であることに触れていない場合▲2点減点で△1点。

○「自らの意志に関わらず」は、本文通り「好むと好まざるとにかかわらず」でもよい。

▲「自らの意志に関わらず」の要素ヌケは▲1点減点。

D 「規格化された行動をしなければならぬから」(3点)

※要素Cにおいて、規格化された行動をしなければならぬということの説明していないものは要素D加点なし

※0点。

△「規格化」という語を使わず、「自らを律しなければならぬから」の場合は、▲2点減点で△1点。

三 (古文) 採点基準 (合計 50 点)

問一 1点×3＝3点

(解答) a を b おほ c おぼ

「ポイント」

※ひらがな・歴史的仮名遣いでなくてはならない。

※正解以外はすべて✖。

※句読点は不要(不問)。

問二 1点×6＝6点

(解答) X 断定・連用 (1点×2)

Y 完了・連用 (1点×2)

Z 存続・連体 (1点×2)

問三 1点×3＝3点

(解答) ①・⑤・⑥

「ポイント」

※順不同可。

※4つ以上選んでいる場合、全体✖。

問四 3点×3＝9点

(解答) 甲 口 乙 二 丙 八

B (解答例) 3点

A○1点

B○2点

どうしてそれほどまでに お悩みになる必要がありましたか。(3点)

「ポイント」

○句読点の有無は不問。

A 「どうしてそれほどまでに」(1点)

※「なじかは、さまでに」の現代語訳

○「どうして」は「なぜ」などでもよい。

○「それほどまでに」は「それほど」「そんなに」などでもよい

B 「お悩みになる必要がありましたか」(2点)

※「煩ひ給ふべき」の現代語訳

○「悩む」は「苦しむ」「困る」などでもよい。

※この意がない場合は×。

▲**尊敬**の意「おゝになる・ゝなさる」がない場合は▲減点1点。

▲「べし」の訳として「必要・べき」(当然)、**推量**「〜だろう・〜でしょう」の**いずれもない**場合は▲減点1点。

○模範解答では「必要・ましょう」と、当然と推量の両方を訳しているが、どちらか一つがあればよしとする。

E (解答例) 3点

A○3点

命を絶ってしまったとかいう人

「ポイント」

○句読点の有無は不問。

A 「命を絶ってしまったとかいう人」(3点)

※「身をいたづらになし果てけん人」の現代語訳

○「命を絶つ」は「死ぬ」の意があればよい。

※この意がない場合は×。

▲「てしまつ」(果て)の訳がない場合は▲減点1点。

○「たとかいう」(けん)の訳は「たような」でもよい。

▲これがない場合は減点1点。

▲「人」がない場合は▲減点1点。

C (解答例) 7点

(解答例)

A〇2点

B〇2点

化粧や着飾ることをやめて、時の移ろいに身を任せたので

C〇3点

肉体も衣服も気味悪く汚くなった、ということ。 (49字) (7点)

■ 表記・字数

- ・ 字数指定 50字。字数が少ないことによる減点はしない。
- ・ 文末表現指定なし。模範解答に準ずる。
- ・ 句読点の有無不問。

「ポイント」

A 「化粧や着飾ることをやめて」(2点)

- 「化粧や着飾るのをやめて・化粧やおしゃれをせず」の意があればよい。
- ▲ 「化粧」・「着飾る」のどちらか一つしかない場合は、▲減点1点。

B 「時の移ろいに身を任せたので」(2点)

- 「時に身を任せて・なるがままにして」の意があればよい。

C 「肉体も衣服も気味悪く汚くなった、ということ」(3点)

- 「体も衣も汚くなった」の意があればよい。
- 「汚い」は「気味が悪い・不快だ・堪えがたい」などでもよい。
- ▲ 右の意がなく「臭い」がある場合は▲減点1点。
- ※ 右の意も「臭い」もない場合は✕。
- ▲ 「肉体」・「衣服」のどちらか一つしかない場合は、▲減点1点。

F (解答例) 7点

(解答例)

A ○2点

B ○2点

死んで時間が経ったり、腐ったりした時に、
C ○3点

見た目が醜くなるのは言うまでもないことである、ということ。(49字)(7点)

■ 表記・字数

- ・ 字数指定 50字。字数が少ないことによる減点はしない。
- ・ 文末表現指定なし。模範解答に準ずる。
- ・ 句読点の有無不問。

「ポイント」

A 「死んで時間が経ったり」(2点)

× 「死んで」の意がない場合は×。

▲ 「時間が経つ」の意がない場合は、▲減点1点。

○ 「息が止まる・体か冷える」の有無は不問。

B 「腐ったりした時に」(2点)

○ 「腐る」がある場合は、「皮膚が裂け」「筋が溶け」「肉が溶ける」の有無は不問。

○ 「腐る」がないが、「皮膚が裂け」「筋が溶け」「肉が溶ける」の三つが全て書かれている場合は、それでもよしとする。

▲ 「腐る」がなく、「皮膚が裂け」「筋が溶け」「肉が溶ける」のうち、二つが書かれている場合は、い場合は、▲減点1点。

× 一つしか書かれていない場合は×。

C 「見た目が醜くなるのは言うまでもないことである、ということ」(3点)

○ 「醜くなるのは言うまでもない」の意があればよい。「見た目」はなくてもよい。

○ 「醜い」は「汚い・気味が悪い・不快だ・堪えがたい」などでもよい。

○ 「は言うまでもない」は、「いはんや」を「の意が表れていれば「まして醜くなる」などでもよい。

▲ この意がない場合は、▲減点2点。

問七 5点

(解答例)

A〇3点

僧都が仏道に携わる人物なので、

B〇2点

ありのままの姿を見せなければならぬと考えたから。(40字)(5点)

■ 表記・字数

- ・ 字数指定 40字。字数が少ないことによる減点はしない。
- ・ 文末表現指定なし。模範解答に準ずる。
- ・ 句読点の有無不問。

「ポイント」

A 「僧都が 仏道に携わる人物なので」(3点)

○ 「僧都」は「僧」、「仏道」は「仏教」などでもよい。

○ 「携わる」は「関わる・信じている・帰依している」などでもよい。

▲ 右の意がなく、「近い」となっている場合は、▲減点1点。

B 「ありのままの姿を見せなければならぬと考えたから」(2点)

○ 「あるがままを見せるべきだから」、もしくは「嘘はつけないから」の意があればよい。

問八 2点×2＝4点

(解答) ニ・ノ

「ポイント」

※順不同可。

【四】 漢文 50点 ※有名と同じ設問でも基準・配点が違うものがあるので注意してください。

問一 2点×4＝8点

(解答) a すなわち

b じやうじやく

c おのおの

d ようやく

【採点のポイント】

▲歴史的仮名遣いの場合、▲減点1点。

例 a 「すなはち」 d 「やうやく」

※送り仮名の不足は0点。

例 a 「すなわ」 b 「じやうじやく」 c 「おの」 d 「ようやく」

問二 4点×2＝8点

1

A○1点

B○2点

C○1点

(解答例) 一度も かじ取りを 間違えたことが ない (ということ)。(4点)

【採点のポイント】

○主体「船頭は」および「かじ取りを」は不問。

○A「一度も」は「いままで」に「いまだかつて」など可。

4

A○3点

B1点

(解答例) ほんのわずかな時間で 到着した (ということ)。(4点)

【採点のポイント】

△Aは「一回の食事の時間で」「一回の食事の時間でないうちに」の場合△2点。

○Aは「ごく短い時間」「短時間」など可。

問三 3点×2＝6点

14

2

(解答例) 顔色を失った(3点)

〔採点のポイント〕

○「顔色が青ざめた」「顔が真っ青になった」「愕然とした」なども可○。

3

(解答例) 落ち着いたようすで(3点)

〔採点のポイント〕

○「落ち着きはらって」「ゆったりとして」「慌てることなく」「冷静な様子で」「取り乱したりせず」などで○。
○「〜て(で)」「はなくとも可○。

問四 3点

(解答) 迅 (3点)

〔採点のポイント〕

※誤字は不可※。

問五 3点

(解答) ホ (3点)

問六 6点

A○2点

B○2点

C○2点

(解答例) 李白の詩の表現は 文人特有の誇張であると 疑っていた ということ。

(6点)

〔採点のポイント〕

○A「詩の表現」は「詩」「表現」のどちらかがあれば、可○。

▲A「李白」がない場合は▲減点1点で△1点。

○B「文人」は「詩人」なども可。

※ただし「中国人」などは不可。

○B「誇張」は「大げさな表現(もの)」「つくりばなし」「事実ではない話」なども可○。

▲「うそつき」は▲減点1点で△1点。

○C「疑った」は「思った」「考えた」「みなしていた」なども可○。

※字数制限：十五字に満たないものは注意を与え、文が完成していたら採点。

問七 8点

A○2点

B○1点

C○2点

D○1点

(解答例) 舟の速度が速いため

峡中の風景を

ゆっくりと楽しめなかったこと

だけが

E○2点

残念だった。(8点)

「採点のポイント」

A「舟の速度が速いため」(2点)

○舟の速度が速いことが原因で「危険なため」という内容でも○

○「船」「舟」の漢字の違いは不問○。

○「船の」はなくとも可○。

○「早い」「速い」も不問○。

B「峡中の風景を」(1点)

○「峡中」は「道中」「道程」「まわり」などで○。

○「風景」は「景色」「眺め」などで○。

C「ゆっくりと楽しめなかったこと」(2点)

○「ゆっくりと」は「じっくり」「じっくり」などで○。

○「楽しむ」は「味わう」「感じる」「みる」などで○。

D「だけが」(1点)

E「残念だった」(2点)

問八 8点

A○1点

B○3点

C○2点

D○2点

(解答例) 世の中には

困難や危険を乗り越えて

はじめて手に入る

貴重なものがある

とくごう(とくごう)。(8点)

「採点のポイント」

A「世の中には」(1点)

○「世間の法を犯すこともあるが」などで○。

B 「困難や危険を乗り越えて」(3点)

- 「艱難辛苦」「苦しみ」「辛さ」などで○。
- ▲ 「困難」と「危険」のどちらか片方の場合は▲1点減点で△1点。
- 「冒す」を「犯す」としたものの1点減点。
- ひらがなは不問。

C 「はじめて手に入る」(1点)

D 「貴重なものがある」(2点)

- 貴重」は「高価」「価値あるもの」「宝物」「最良のもの」などで○。